

様式 1

福祉サービス第三者評価結果報告書
【児童福祉分野（保育所）】

【受審施設・事業所情報】

事業所名称	みゆきっこ つばめ保育園	
運営法人名称	学校法人 山添学園	
福祉サービスの種別	小規模保育事業	
代表者氏名	園長 阪田 博亮	
定員（利用人数）	19 名	
事業所所在地	〒 532-0011 大阪市淀川区西中島4丁目10番4号	
電話番号	06 － 6195 － 2001	
FAX番号	06 － 6195 － 2001	
ホームページアドレス	https://tsubame-sora.com/	
電子メールアドレス	miyuki-sora@snow.ocn.ne.jp	
事業開始年月日	平成27年4月1日	
職員・従業員数※	正規 7 名	非正規 2 名
専門職員※	調理師(委託) 1名 保育士7名	
施設・設備の概要※	[居室]	
	[設備等] 厨房・更衣室・子どもトイレ・大人トイレ	

※印の項目については、定義等を最終頁に記載しています。

【第三者評価の受審状況】

受審回数	0 回
前回の受審時期	年度

【評価結果公表に関する事業所の同意の有無】

評価結果公表に関する事業所の同意の有無	有
---------------------	---

【理念・基本方針】

- ・子ども一人ひとりのありのままの姿を受け止め、乳児期に生きる力の基礎を育む。
- ・保育園、家庭、地域が協力して、健全な子どもの育ちを保障する。
- ・職員は、子どもの最善の幸福を第一義として保育を行う。

【保育目標】

- ・好奇心旺盛な子ども
- ・自分の気持ちを表現できる子ども
- ・人への信頼感を持てる子ども

【施設・事業所の特徴的な取組】

当園は、法人本部を守口市に構え、7つの事業を運営する学校法人山添学園が母体となり運営をしています。定員19名以下の小規模保育園として、愛着形成の土台となる重要な乳児期、ひとりの子どもに配慮する視点、丁寧に寄り添った保育を大切にしています。

在園する子どもたちの中には外国籍のお子さんもあり、異なる文化や習慣を互いに尊重し合う多様性のある環境が、日常の中で自然と育まれています。また、小規模保育園ながら園でバス所有しており、近隣の公園や遠足に頻繁に出かけ、季節の変化を全身で感じながら好奇心や探究心を育む体験を日々提供しています。

保育の質向上に向けては法人全体で保育スケール環境評価を導入し、スタッフ全員で保育環境や関わり方を定期的に振り返ることで、根拠のある保育の実践と継続的な改善に努めています。さらに「つばめ保育園」と「そら保育園」が近くであることで姉妹園と連携し、合同行事や職員の助け合いも行い、多様性を大切にしながら、子どもたちの「生きる力」を育む地域に密着した保育園を目指しています。

【評価機関情報】

第三者評価機関名	特定非営利活動法人 ほっと
大阪府認証番号	270051
評価実施期間	令和7年6月1日～令和8年3月13日
評価決定年月日	令和8年3月13日
評価調査者（役割）	2301C021（運営管理委員） 2301C020（専門職委員） （ （

【総評】

◆評価機関総合コメント

学校法人山添学園は、守口市にある幼保連携型認定こども園の御幸幼稚園・さくらんぼ保育園を母体として運営しています。

平成27年4月に現在の大阪市淀川区に大阪市認可の小規模保育事業A型として「みゆきっこつばめ保育園」を開園しました。

そして、待機児童解消と保護者や地域のニーズにお応えし、平成30年4月に姉妹園の「みゆきっこ そら保育園」を開園しました。

環境設備面的には乳幼児保育用に室内改装され、安全・快適に過ごされるようになっていきます。職員も経験豊富な職員を揃え、乳幼児の発達・療育に必要な保育を心がけています。今後は、日ごろの業務整理と役割分担を明確にし、振り返りが文書で確認できるようにすることを望みます。

◆特に評価の高い点

小規模施設であることから、園児一人一人にきめ細やかな対応を行っていることや、保護者アンケートの回収率が100%であることや、記述内容からも満足されている内容となっていました。

また、多国籍、多文化に対しても対応し、グローバルな環境の中で一人一人の保育を大切にしています。

◆改善を求められる点

福祉サービスの基本方針と組織に関しては、法人全体での組織化が求められます。また、基本方針に関しての職員周知に関しても、管理者としての創意工夫は見受けられませんが、具体的に組織的な改善策を提示するまでは至っていません。

具体的には、相談時の対応、情報提供の工夫を望みます。

法人としての各種マニュアル整備は進んでいますが、自園で活用ができるようにとして、職員への周知を進めることの望みます。

法人として福祉ニーズと掘んだ上での小規模保育園ですが、立地環境、立地地域の福祉ニーズの把握していくために、地域交流を深め、地域の保育ニーズの実情や把握を望みます。

◆第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回の第三者評価を真摯に受け止め、管理者としての取り組みにとどまらず、法人全体として組織的に改善を進めていくための体制づくりに着手するとともに、自園での基本方針の職員周知や相談対応・情報提供の改善、マニュアルの実践的な活用に取り組みながら、その成果や現場で見えてきた課題・気づきを積極的に法人へ発信・提案することで、現場と法人が連携した組織全体の質の向上につながる新たな仕組みづくりを共に進めてまいります。

◆第三者評価結果

・別紙「第三者評価結果」を参照

第三者評価結果

評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

		評価結果
Ⅰ-1 理念・基本方針		
Ⅰ-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		
Ⅰ-1-(1)-①	理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b
(コメント)	理念・基本方針は文章化されていますが、職員周知に向けて、さらなる工夫を期待します。定例会議等の際に、読み合わせや保育計画策定の際にも理念・基本方針に沿った計画立案になっているかどうかを職員間での再認識を深める場としての活用を望みます。	

		評価結果
Ⅰ-2 経営状況の把握		
Ⅰ-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
Ⅰ-2-(1)-①	事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b
(コメント)	福祉法人全体での会議等で報告は実施されています。今後は事業所として、福祉新聞等の外部からの情報収集にも力を入れ、事業所としても情報を受け入れるだけでなく、外部からの情報の収集、受け入れた情報を事業に活用できるような提案を望みます。	
Ⅰ-2-(1)-②	経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	b
(コメント)	管理者の中では経営課題は明確にされていますが、それを職員間での共通認識とし、具体的な取り組みを提案できるようになることを臨みます。	

		評価結果
Ⅰ-3 事業計画の策定		
Ⅰ-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
Ⅰ-3-(1)-①	中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
(コメント)	法人として目標は明確にされていますが、その目標に向かっての具体的な数値目標や見通し、現状を振り返る機会を検討することを望みます。	
Ⅰ-3-(1)-②	中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	c
(コメント)	昨年度の振り返りはされていますが、中長期計画を見通した年度計画の策定を望みます。法人の中長期計画を基に事業所としての社会情勢や地域ニーズを把握したうえで、具体的な計画の策定と、職員周知に向けての事業展開を望みます。	

I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		
I-3-(2)-①	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
(コメント)	会議等は定期的実施されていますが、保育を振り返り、よりよい保育を目指していくうえでも、総括会議等を踏まえたうえでの計画立案を望みます。	
I-3-(2)-②	事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	b
(コメント)	クラス懇談会等は実施されていますが、事業計画を説明する場とはなっていないことから、懇談会での説明内容の実施を望みます。また、懇談会に参加できなかったご家族に対してもプリント等での周知を期待します。	

		評価結果
I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組		
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
I-4-(1)-①	保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
(コメント)	自己評価は年に1回実施されていますが、その活用方法についてはさらなる検討をおこない、職員全体での振り返りができるような工夫を望みます。	
I-4-(1)-②	評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	c
(コメント)	今回が初めての受審のため、今回の指摘事項についての次回の改善を期待します。	

評価対象Ⅱ 組織の運営管理

		評価結果
Ⅱ-1 管理者の責任とリーダーシップ		
Ⅱ-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
Ⅱ-1-(1)-①	施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
(コメント)	管理者としての役割と責務については、個人として大きく自覚し役割も担っていますが、職員の中での管理者責任と役割について認識が十分でなく、組織的な改善を望みます。	
Ⅱ-1-(1)-②	遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
(コメント)	今年度は不審者対応等、法令順守を基本に職員への周知徹底を図っていますが、研修や職員会議等での振り返りで、理解度を確認する取り組みに期待します。	
Ⅱ-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
Ⅱ-1-(2)-①	保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	b
(コメント)	職員に向けて、面談シートを作成し、職員一人一人の振り返りや課題を整理し、組織的な力を引き出すことができています。今後は面談から引き出した課題について、組織的な解決に向けて更なる取り組みを望みます。	

Ⅱ-1-(2)-②	経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
(コメント)	経営状況の分析などは法人全体で取り組まれています。園単位でも有休消化やワークバランス等についても積極的に展開されていますが、改善に向けての取組みが職員全体で組織的におこなわれ、会議の場で報告や振り返りができるような工夫が望まれます。	

		評価結果
Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成		
Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
Ⅱ-2-(1)-①	必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
(コメント)	保育事業そのものが、人材確保が難しい状況になっている中、職員の定着に向けては個人面談やキャリアアップに向けての工夫も見られましたが、新規の採用に関しては、園単位での取り組みだけでなく、法人として、人材確保に向けての具体的な方針立案を望みます。	
Ⅱ-2-(1)-②	総合的な人事管理が行われている。	b
(コメント)	園内での会議や個人面談等、組織的に整理をされていますが、給料体系等、職員への周知が不十分な部分も見受けられました。今後は、職員が将来の姿を描ける総合的な仕組みを構築していくためにも、法人単位での人事管理の整理を望みます。	
Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
Ⅱ-2-(2)-①	職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
(コメント)	管理者が有休消化についても確認し、ワークライフバランスについても職員が働きやすい職場を作ることに力を注いでいます。職員面談においても、面談シートを準備し職員がキャリアアップを図れるような工夫もされています。今後は園内での組織的な役割についても検討し、職員の勤務意向に寄り添った組織作りを期待します。	
Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
Ⅱ-2-(3)-①	職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
(コメント)	法人の人材育成だけでなく、園としての研修計画や個人面談を基本としたキャリアアップの作成に期待します。また、伝達研修等を利用し、職員同士でのキャリアアップが図れるような取り組みを期待します。	
Ⅱ-2-(3)-②	職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
(コメント)	法人単位だけでなく、法人計画を基にした園独自の計画と後で振り返りができるような記録の作成を望みます。	
Ⅱ-2-(3)-③	職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	b
(コメント)	法人主催での研修だけでなく、職員の個人面談を基に研修計画の立案、伝達研修の実施、外部研修への積極的な参加呼びかけ等を期待します。	
Ⅱ-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
Ⅱ-2-(4)-①	実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
(コメント)	法人としてのマニュアルはありましたが、再度園内で実習生の受け入れの目的・意義を確認し、積極的な実習生の受け入れを期待します。	

		評価結果
Ⅱ-3 運営の透明性の確保		
Ⅱ-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
Ⅱ-3-(1)-①	運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	c
(コメント)	法人単位では、会計士、税理士等専門家を交え取り組まれ、決算書の情報は公開されていますが、事業計画や、苦情の公開も望めます。園としても園だより等で、家族に情報提供を期待します。	
Ⅱ-3-(1)-②	公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b
(コメント)	法人としては各事業ごとでのホームページを作成し、園の全貌が見えるような工夫はされています。今後は法人全体が見えるような工夫が望めます。	

		評価結果
Ⅱ-4 地域との交流、地域貢献		
Ⅱ-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
Ⅱ-4-(1)-①	子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b
(コメント)	日々の保育の中で、近隣の公園への散歩に行っているが、子どもたちが地域活動に参加する機会は今はつくっていません。 職員は地域の小学校のお祭りにボランティアとして参加しているが、今後は子どもと地域との交流をつくっていく取り組みを検討中とのことなので、次年度以降に期待します。	
Ⅱ-4-(1)-②	ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
(コメント)	ボランティアの受入れについては、始めたばかりで、保育士も外部の人が現場に入ってくることに慣れていません。まずは、地域の学校等との関係を深めていく取り組みを望みます。	
Ⅱ-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。		
Ⅱ-4-(2)-①	保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
(コメント)	自治会にはいってはいますが、管理者のみが対応しており、関係団体との繋がりはあまりもてていないため、保育士にとっては地域との関りは弱く、理解は不十分です。 今年度はじめて地域のお祭りに、管理者と職員が初めて参加し、これを機に今後の関係づくりを発展できることを望みます。	
Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
Ⅱ-4-(3)-①	地域福祉のニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
(コメント)	施設見学等に来られた時に、子育ての相談等があれば対応はしていますが、子育て相談事業等 地域にむけて開催することはしていません。 施設も、小規模のため、地域の子どもたちを受け入れは現状では難しい面もありますが、地域に向けた取り組みを検討する事を望みます。	

II-4-(3)-②	地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	c
(コメント)	見学等の方が来られた時に、悩みや子育て相談を聞く機会をつくっているが、地域の具体的な福祉ニーズについては把握できていません。 地域の中にある事業所の一つとして、日常保育の中で、地域のニーズが拾える視点が現場には育ちされていませんが、今後地域福祉を視野に入れた人材育成には取り組みたい意向をもたれていることに期待します。	

評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

		評価結果
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス		
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
Ⅲ-1-(1)-①	子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	b
(コメント)	多国籍の子どもがいるため、一人一人の生活習慣や文化の違いがある中で、家族とのコミュニケーションをはかり、子どもたちがお互いに尊重する気持ちを育めるよう、肌の色の違う人形を置いたり、様々な国の食を給食に取り入れたりと、配慮し保育しています。 人権研修等の研修については法人内研修はじっしされていますが、施設でも全職員対象で研修されることを望みます。	
Ⅲ-1-(1)-②	子どものプライバシー保護に配慮した保育が行われている。	b
(コメント)	小規模保育園という狭い空間ですが、規定・マニュアル等にもとづいて、排泄・着替え等、生活場面での配慮はされていますが、プライバシー保護等の研修が全職員対象での研修ができていません。次年度は研修計画をたてさらなる保育の質の向上を望みます。	
Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
Ⅲ-1-(2)-①	利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	a
(コメント)	パンフレットは園は公共施設には設置できていませんが、ホームページやInstagramで子どもたちや園の様子ををわかりやすく伝え、園にはパンフレットも置いています。 多国籍の見学者にも園の事はわかるように、丁寧な説明を意識されています。	
Ⅲ-1-(2)-②	保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a
(コメント)	契約等の際には入園のしおりを用いて丁寧に説明をしています。また多国籍の保護者に対しルビ付きの資料等を準備し理解をしてもらえるよう努めています。 保護者には、定期的に面談をおこない、園の行事等 変更があったときなど保護者の意向も聞きながら理解してもらうようにしています。	
Ⅲ-1-(2)-③	保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	b
(コメント)	0歳児から3歳児までの子どもたちなので、連携保育園には子どもたちの引継ぎはしていますが、連携外の保育園との関係づくりには課題があります。 卒園の際も、また来てほしい旨の声はかけてはいますが、園行事への呼びかけ等、卒園児との関係づくりを計画されることを望みます。	

Ⅲ-1-(3) 利用者満足の向上に努めている。

Ⅲ-1-(3)-①	利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
(コメント)	日々の送迎時に保護者への声掛けを行い、会話を深めることで利用者意向の把握を行っています。また、保護者懇談会は定期的の実施し保護者の意向を聞くようにしています。 日本語での理解が難しい保護者には、文章だけでなく文化の違いを配慮しつつ直接送迎時に丁寧に説明するようにしています。 利用者アンケート等、利用者満足度調査は未実施ですので、今後は定期的なアンケート実施で改善課題等を把握するよう努められる事を望みます。	

Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。

Ⅲ-1-(4)-①	苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
(コメント)	保護者から意見があった場合、全職員会議で共有し課題の把握には努めていますが、苦情解決の記録が未実施です。 苦情解決の仕組みを整備し、職員・保護者へ周知し、苦情解決委員会等を定期開催し記録を残し、苦情解決に向けて課題共有していくよう期待します。	
Ⅲ-1-(4)-②	保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	b
(コメント)	保育園の入り口に意見箱は設置されており、意見を伝えられる環境にはなっていますが、園として苦情解決の仕組みが整備されておらず、保護者への説明が不十分なため、ほとんど活用されていません。 小規模の保育園の特性をいかし、職員はどの保護者へも声掛けをし、保護者が相談や子どもの事を話しやすい風土になっていることは継続していただきたいです。	
Ⅲ-1-(4)-③	保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
(コメント)	マニュアルが周知されていて、ヒヤリハット、事故報告等、職員全体での周知ができていますが、職員がマニュアルに意見をだす等の見直しはおこなわれていない。 現場職員が主体的に意見を伝え、園全体の保育の質の向上に取組む場を設定される事を望みます。	

Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。

Ⅲ-1-(5)-①	安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
(コメント)	園内で起こった事案については「ヒヤリハット」報告書を作成し、その事例を会議で全職員に報告共有しています。 園の点検・消毒等も毎日行い異常があればすぐに報告する事で事故を未然に防いでいます。 事故には至らなかったささいな気づきについても「ヒヤリハット」として意識し報告することで事故を防ぐことを職員間で確認できるようにすることが望まれます。	
Ⅲ-1-(5)-②	感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
(コメント)	感染症の予防及び発生を広げない為の対策について、多国籍の保護者に対しても文化の違いを考慮しながら丁寧に理解してもらえる様にされています。 今後は定期的な感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催し、組織として体制を整備し取り組みを進めていく事を望みます。	

Ⅲ-1-(5)-③	災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b
(コメント)	園では月に1回の避難訓練を実施。火災・不審者等 様々なシチュエーションを考え実施しています。 備品持ち出しについては、離れた場所に倉庫を借りて保管していますが、食料・おむつ等 日常的な非常持ち出し用バックの準備をすすめられることを期待します。	

		評価結果
Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保		
Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
Ⅲ-2-(1)-①	保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	b
(コメント)	保育の指導計画書等、実施方法は文書化され、整備されています。 実施後の振り返り等、管理者と共に職員集団で総括する仕組みを作っていく事を期待します。	
Ⅲ-2-(1)-②	標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
(コメント)	指導計画について、一人一人の個別指導計画が作成されています。 実施後 職員集団での振り返りや、職員や保護者からの意見や提案を反映する機会をもち、実践をよりよいものにしていくことを期待します。	
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		
Ⅲ-2-(2)-①	アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。	b
(コメント)	指導計画については、アセスメントに基づき作成していますが、計画を作成するにあたり、様々な職種や関係機関と連携し指導計画を立てる事はできていません。多文化の保護者ニーズをより把握するためにも、必要に応じて保育所以外の参画を検討する事を期待します。	
Ⅲ-2-(2)-②	定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	b
(コメント)	指導計画については、見直しの時期・保護者の意向等について、反映されるよう計画づくりはおこなわれていますが、集団での論議の場が設けられていないのが課題です。職員集団で意見交流をする機会をもたれることを望みます。	
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		
Ⅲ-2-(3)-①	子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
(コメント)	保育記録等 申し送りは実施され記録され会議等で報告されています。	
Ⅲ-2-(3)-②	子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
(コメント)	個人情報については、規定を共有し、管理を徹底しています。 ケース等は、鍵付きの棚に保管すること・園保管のUSBにデータを入れたり園外に持ち出すことの禁止等は徹底し個人情報の漏洩を防いでいます。 インスタグラムでの子どもの映像については、保護者と文章で確認し不適切な利用や漏洩のないよう管理しています。	

児童福祉分野【保育所】の内容評価基準

		評価結果
A－1 保育内容		
A－1－（１） 全体的な計画の作成		
A－1－（１）-①	保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	b
（コメント）	全体的な計画は保育園の理念、保育の方針や目標に基づき作成されています。全体計画に基づいて年間指導計画や月案、週案、日案が作成されています。毎月の伝達会議で話し合われていますが、全体計画等の定期的な評価、反省、見直し等が出来ていないので、今後全職員参加での評価や見直しを実施していくよう期待します。	
A－1－（２） 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開		
A－1－（２）-①	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a
（コメント）	保育室内の温度や採光等適切な状態です。玄関からすぐに2歳児室ですが、安全面は鍵の施錠等十分に配慮されています。子どものロッカーや机、椅子等、年齢に合ったものになっています。子どもの持ち物がわかり、基本的生活習慣を身につけられるように配慮されています。	
A－1－（２）-②	一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b
（コメント）	どの年齢の担当の保育士も一人ひとりの子どもに寄り添い、丁寧な言葉で関わろうとする姿が見られます。その日によって体制が厳しい時等、姉妹園や他のクラスや支援員さんの応援で保育されています。今後は、採用を含め今後もよりよい体制づくりを願います。体制やほっと出来る環境等を整えることで、さらに1対1等の子どもへの関わりや対応にゆとりが生まれてきます。	
A－1－（２）-③	子どもが基本的生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	b
（コメント）	一人ひとりの子どもの発達に合わせて、子どもの気持ちを尊重して声かけや援助しています。職員同士で応援し合ったり、園長も援助する様子もあり、今後体制にゆとりが出来ることを期待します。	
A－1－（２）-④	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	b
（コメント）	おもちゃを置く棚で区切りを作りコーナーをつくる工夫をして配置されています。子どもたちが年齢発達に合ったおもちゃを選び、主体的に遊ぶ姿が見られます。地域の方との交流は、散歩で近くの公園行く場合、挨拶等意識的な取り組みを望みます。	
A－1－（２）-⑤	乳児保育（0歳児）において、養護を教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
（コメント）	0歳～1歳は保育士同士が連携しながら、一緒に遊んだり生活しています。棚の角等は危険のないように保護しています。送迎時や連絡ノート等で家庭と連携しながら保育をすすめ信頼関係を大切にしています。子どもと1対1の関わりを蜜に、笑顔でやさしく接しています。	

A-1-(2)-⑥	3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b
(コメント)	1歳と2歳児クラスは部屋は区切られていますが、扉に様子が見える窓があり、保育士同士連携して保育をすすめています。年齢発達に合った遊びのコーナーが配置され、子どもが主体的に遊びを選ぶ姿が見られます。2歳児クラスは部屋が独立していて、自己主張の時期でもあり遊びの中でトラブルになった時には、子どもの自我の育ちを受け止められるような人的配置の工夫が望まれます。	
A-1-(2)-⑦	3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	—
(コメント)	該当しません。	
A-1-(2)-⑧	障がいのある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b
(コメント)	配慮の必要な子どもたちのために保育士が一人ひとりに丁寧な言葉で関わる姿が見られます。年齢が大きくなるにしたがい、走ったりリズムをしたりする広い空間がないので、散歩等を利用して全身を動かし、気持ちを切り替えたり、全身を使って遊ぶ機会を大切にしたり取り組みを今後も望みます。発達や特別支援等についての研修を行い、保育士の自己研鑽に努めることを期待します。施設面で将来的にバリアフリーやほっと出来る保育室等の計画を期待します。	
A-1-(2)-⑨	それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
(コメント)	一日を見通し、小規模保育園の良さを活かし子どもが主体的に遊べる生活空間を工夫されています。連絡ノートや引き継ぎノートを基本に職員間で引き継ぎを行い、子ども一人ひとりを大切に保護者へ丁寧で蜜な関わりを持つことを大切にしています。	
A-1-(2)-⑩	小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	—
(コメント)	該当しません。	

1-(3)健康管理

A-1-(3)-①	子どもの健康管理を適切に行っている。	a
(コメント)	子どもの健康管理に関するマニュアルは整備されています。マニュアルに基づいて職員一人ひとりひとりが子どもの健康状態を把握できるよう会議を持ち、周知されています。保護者に対して職員同士共有し子どもの体調等を日々丁寧に伝えています。今後も保護者に対して園の子ども健康に対する方針や乳幼児突然死症候群等の取り組みを知らせていきたいと思います。	
A-1-(3)-②	健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	b
(コメント)	内科健診や歯科健診の結果が記載され、家庭で生かせるように保護者に伝え、職員にも周知しています。今後、健診結果が計画や保育に生かせるよう見直しや保育の工夫等を期待します。	
A-1-(3)-③	アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a
(コメント)	アレルギー疾患等医師の指示のもと保護者と献立表を確認し、給食時にも調理員とも連携しながら誤食予防に努めています。他の子どもと盆の色を変える等配慮しています。年齢が低い難しさはありますが、分かりやすい言葉で理解を図る工夫を期待します。	

A-1-(4) 食事		
A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。		a
(コメント)	調理室が目の前にあり、常に調理員と話が出来る環境にあり、蜜に連携を取り、0歳児は陶器の食器を使用し子ども一人ひとりの体調や量に合わせて「おかわり」という形で食事を無理なく楽しむ工夫がされ、個々に合わせた対応になっています。	
A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。		a
(コメント)	2歳児クラスが食材のきのこをさく等を経験し給食への興味関心が育っています。献立についても給食会議を持ち、喫食状況等を調理員と連携してすすめています。おかわりをもらいに行く時に子どもの様子を伝え、無理のない一人ひとりの量を大切にしています。調理師と連携し食べているときも、子どもの様子をこまめに伝える等、連携が見られます。	

		評価結果
A-2 子育て支援		
A-2-(1) 家庭との緊密な連携		
A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。		a
(コメント)	送迎時等で子どもの様子を職員間で引き継ぎノートを活用し、丁寧に伝えていきます。毎月の伝達会議で、保育士間の間でもクラスを越えてそれぞれの家庭状況について共有されています。特に外国籍の家庭については、時間をかけて話す機会を大切にしています。	
A-2-(2) 保護者等の支援		
A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。		b
(コメント)	日々の送迎時等で保護者とのコミュニケーションを大切にしています。個人懇談等で保護者から相談を受けた時は受けた内容を担任から主任、園長へ報告という流れは来ています。正規非正規を含め、全職員が適切に対応しているかは把握出来ていないので、保護者アンケートを取る等で保護者の声を聞く機会を大切にしていけることを期待します。	
A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。		b
(コメント)	虐待防止マニュアルは整備されています。日々の保護者支援とともに、虐待等権利侵害がある時は、速やかに保育所内で情報共有や対応を協議し、児童相談所等の関係機関との連携が取れるよう、園内でマニュアルにもとづく職員研修を定期的に実施することを期待します。	

		評価結果
A-3 保育の質の向上		
A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）		
A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。		b
(コメント)	スケールを意識し、環境の改善に努めています。保育士等が、記録や話し合いを通して自らの実践の振り返りを行っています。明確な記録や面談として自己評価が行われていないということなので、今後、記録や面談を行い、定期的な自己評価を行い、保育実践の改善や園全体の保育園評価となることを期待します。	

		評価結果
A-4 子どもの発達・生活援助		
A-4-(1) 子どもの発達・生活援助		
A-4-(1)-①	体罰等子どもへの不適切な対応が行われないよう、防止と早期発見に取り組んでいる。	b
(コメント)	「就業規則」等の規定に体罰の禁止を明記しています。日常の生活や遊びの中で体罰を行う現場を見たことがないということですが、今後、日頃から体罰等の起こりやすい状況や場面を検証するとともに、援助技術の習得を図る等の取り組みや、園全体の研修が行われることを期待します。「虐待」「権利擁護」「差別」「合理的配慮」等を大切にされているので、さらに今後の人材育成に向けて研修を積さねることを期待します。	

利用者(保護者)への聞き取り等の結果

調査の概要

調査対象者	通所園児家族 つばめ
調査対象者数	11人
調査方法	家族アンケートを実施、配布は園で行い、回収に関しては、直接第三者評価間であるほつとに届くように返信用封筒を添えて配布、多国籍の家族に対応できるように、アンケート言語も母国語を使用して配布を行いました。

利用者への聞き取り等の結果（概要）

11名の配布で回答9名
ほとんどが満足をされている回答でしたが、送迎時の対応に少し不安がある方もいらっしゃいました。家庭への連絡事項等、言葉かけの丁寧さに配慮することを望みます。

保護者の声
いつもお世話になっております。

- ・入園当初は人見知りで泣いてばかりだった娘が今では、毎日「保育園、楽しい！」と言って元気に通っているのは、先生方が毎日あたたかく、根気強く関わってくださっているおかげです。自然と触れ合う活動や季節の行事も充実しており、親子共々毎日楽しく過ごさせていただいております。本当にありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。
- ・毎日明るくお迎えしてくださり、子ども楽しく過ごせております。

子の様子をしっかり見てくれており、安心してあずけることができます
子が大きくなってからも「ここで育ったんだよ」「〇〇先生いらっしゃるかな」とお話ししたいので、子だけでなく、園の先生方の働きやすさにも目を向けて、ずっと働けるような園にしていけたらと思っています。

福祉サービス第三者評価結果報告書【受審施設・事業所情報】 における項目の定義等について

①【職員・従業員数】

●以下の項目について、雇用形態（施設・事業所における呼称による分類）による区分で記載しています。

▶正規の職員・従業員

・一般職員や正社員などと呼ばれている人の人数。

▶非正規の職員・従業員

・パート、アルバイト、労働者派遣事業所の派遣社員、契約社員、嘱託などと呼ばれている人の人数。

②【専門職員】

●社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員、訪問介護員、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、保育士、社会福祉主事、医師、薬剤師、看護師、准看護師、保健師、栄養士等の福祉・保健・医療に関するものについて、専門職名及びその人数を記載しています。

③【施設・設備の概要】

●施設・設備の概要（居室の種類、その数及び居室以外の設備等の種類、その数）について記載しています。特に、特徴的なもの、施設・事業所が利用される方等にアピールしたい居室及び設備等を優先的に記載しています。併せて、【施設・事業所の特徴的な取組】の欄にも記載している場合があります。

	例
居室	●個室、2人部屋、3人部屋、4人部屋 等
設備等	●保育室（0才児、1才児、2才児、3才児、4才児、5才児）、調乳室、洗面室、浴室、調理室、更衣室、医務室、機能訓練室、講堂 等